

ユビキタス時代の人材育成 —東京の持つ機能をいわきで—

東日本国際大学経済情報学部学部長・教授 水田 健

私がいわきにやって来たのは大学が設立された年なので、すでに私のいわき生活も今年13年目に入りました。

近ごろではかなりいわきの人になっただけでなく、週末に東京に戻ると、人であふれかえった街の騒々しさに圧倒されてしまいます。いわきに生まれ育った人は気づかないのかもしれませんが、ゆっくりと流れる時間の中で暮らす生活は実に貴重なものです。

私は毎週そういういわきでのゆったりとした生活を過ごした後、東京に戻るといって生活を続けてきました。というわけで、今では私にとっていわきでの暮らしは、かけがいのないものとなっています。しかしそういう私にとっても、確かに東京は魅力的な街といえます。

それは東京が何かをやりたい人にとって、さまざまな可能性を提供してくれるからです。情報が集中しさまざまなチャンスがある街が東京です。さらに成功すれば豊かな収入も得られます。そして今、その東京がもつ大きな財産が、情報化社会のなかでの情報の集中・加工とその発信機能であり、それを担うハードとソフトの集積です。

この4月から、私が属する東日本国際大学経済学部は経済情報学部となりましたが、それはこの東京がもつ機能をいわきでも実現しようとする試みであると言えます。以上に述べたようなこのいわきの落ち着いた環境の中で、学生にじっくりと経済情報の勉強を進めてもらいたいと思っています。

『新しい酒は新しい皮袋へ』ということわざがあります。新しい情報化社会のなかでのこの中でこれからの経済と情報の教育のために、新しい経済情報学部という皮袋を作ったわけです。ユビキタス(いつでも、どこでも、誰でもコンピュータとネットワークを利用できる環境のこと)時代を迎え、

パソコン、インターネット、携帯電話など情報技術が日常生活に無くてはならないものになり、情報化社会がすさまじい勢いで進展しています。

この中でこれからの社会人は経済と情報を併せ持つことが必要です。いわきでのゆったりとした生活の中で、学生には最先端の経済と情報の教育を提供していくことが新しい学部の使命です。またそれによっていわきという地に新しい風が吹くことを期待しています。

新しい経済情報学部では3コースを設けています。まず「情報マネジメントコース」は、高い情報技術の知識をもって企業で働く人材、あるいは将来はSE（システムエンジニア＝コンピュータシステムの基本設計とその細かな仕様を決める技術者のこと。ソフトウェアの開発管理、保守管理を行なう技術者も含まれる）を目指すような学生を育てようと考えています。

また「キャリア形成コース」では、“起業化プログラム”“まちづくり”などの講座を学び、自身で問題を発見し解決できる能力を身につけ、将来はベンチャー企業の経営や、地域の一般企業、NPOなどで活躍することをを目指す学生の育成を考えています。

さらに「国際地域エコノミーコース」では、国際関係、特にいま発展の著しいアジア関係の知識を身につけ、地域の一般企業や地方公務員、教員として活躍しようとする学生を育てようとしています。それぞれは以上の特徴を有したコースとなっており、学生はそれぞれのコースで経済情報をしっかり見につけることにより、地域の中で活躍できる人材に成長することと信じています。

いわき市は同じ規模の他の市と比べると多くの高等教育機関をもっている珍しい市です。私の属する東日本国際大学以外にも、他に2つの高等教育機関があり、これからのいわきの活性化にとって貴重な資源となることが期待されます。

いわきのおだやかな生活の中で、東京のように急き立てられることなく、学生が落ち着いて勉学に励み、高い教養と知識・技能を身につけた社会人として巣立っていくことを願っていますが、かれらが同時に地域の貴重な人材となり、地域の活性化に役立ってくれることも期待しています。

大学という資源を地域が活用し、大学が地域の恩恵を受けるという両者にとって望ましい結果が生まれることを願ってやみません。